

令和4年度第2回恵庭創生懇談会議事録（要旨）

日時	令和5年2月6日（月）16：00～17：20
場所	恵庭市役所 第2・3委員会室
出席者	小磯 修二（一般社団法人地域研究工房代表理事）
	高岡 哲子（学校法人 鶴岡学園 北海道文教大学 人間科学部看護学科教授）
	佐々木 拓司（北海道エコ・動物自然専門学校 教務部長）
	二瓶 文彰（北洋銀行 恵庭中央支店長）
	三浦 真吾（恵庭記者クラブ（株式会社 あいコミ））
	長太 裕一（連合北海道恵庭地区連合 会長）
	佐藤 康介（社会保険労務士法人 シェルパ 代表）
	業天 章裕（千歳公共職業安定所 所長）
	阿部 真理（北海道石狩振興局 地域創生部長）
報告	（1）デジタル田園都市国家構想総合戦略について
	（2）本市における新たな地方創生の取り組みについて ①ガーデンフェスタ記念事業の推進について ②盤尻地区観光まちづくりの推進について ③ルルマップ自然公園ふれらんど施設のあり方について

流れ	内容
開会	●企画振興部次長 開会のあいさつ
市長 あいさつ	●市長 <p>本日は大変お忙しい中、ご出席をいただきましてありがとうございます。恵庭市では昨年、「ガーデンフェスタ北海道 2022」という全国規模のイベントを開催し、市内外から約 34 万人の方々にご来場をいただきました。それを財産として、これからのまちづくりに活かして参りたく、ガーデンフェスタ後のまちづくりに関する懇談会の開催や予算への反映など、花と緑のまちである恵庭市をさらに飛躍させようと考えております。</p> <p>一方、国におきましては、「デジタル田園都市国家構想総合戦略」が示されましたが、本市においては「第2期恵庭市総合戦略」を引き継いだかたちで、具現化していこうと考えております。</p> <p>おかげさまで、私たちのまちは昨年、人口が 71 人増加いたしました。本懇談会においてこれまでご議論いただき、施策を進めてきたことが要因</p>

	<p>の一つにあるのではと思っております。そのうえで、本懇談会の役割は極めて重要だと考えており、本日も座長の小磯先生を中心に、さまざまなご意見をお聞かせいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。</p>
確認	<p>欠席者及び委員の交代について説明・配布資料の確認</p>
報告（１）	<p>●企画課長 報告「（１）デジタル田園都市国家構想総合戦略について」説明</p> <p>●座長 国において新たに「デジタル田園都市国家構想」が示されたことに伴い、恵庭市においても今後恵庭市総合戦略の改訂について具体的に検討していくという説明でしたが、市長から本件についてお考えはありますか。</p> <p>●市長 第２期恵庭市総合戦略の流れを大切にしながら、検討を進めていきたいと考えております。デジタルでいえば、本市の公式アプリ「えにわか」をバージョンアップさせた内容なども次期総合戦略に盛り込むことができるのではと考えております。また、一昨年作成した本市の「都市計画マスタープラン」では、これまでの南北を中心としたまちづくりに加え、新たに東西軸を意識したまちづくりを検討しており、こうした動きも新たな総合戦略に盛り込んでいけないかと考えております。</p> <p>●座長 恵庭の地方創生の取り組みは、国の動きや内容にとらわれず、恵庭のまちとしてやっていきたいことを目的に掲げ、それに沿って国の政策を有効に使うという、良い意味で強かに進めてきた面がある。それが恵庭の地方創生の取り組みの持ち味です。国のフォーマットに従った戦略ではなくとも、これまでも良い意味で自由にまちづくりプランを策定してこられたので、今回も同様に国のデジタル政策をうまく受け止めて、議論されていくといいと思います。</p> <p>デジタルの政策は、ややもすると外部の専門的な方に知識を委ねてしまいがちだが、優秀なシステムやアプリを作っても、それが外部のコンサルに残るだけだと結果的に使い物にならなくなってしまう恐れがある。デジタル人材を市役所内部、恵庭市内部で育成することが長い目で見るときに重要です。それでは、報告（２）①～③までひとつお説明いただき、そののちに皆さまから全体を通してご意見をいただきたいと思います。</p>
報告（２）	<p>●全国都市緑化北海道フェア推進室主幹 報告「（２）①ガーデンフェスタ記念事業の推進について」説明</p> <p>●花と緑・観光課長 報告「（２）②盤尻地区観光まちづくりの推進について」説明</p>

	<p>●花と緑・観光課長 報告「(2) ③ルルマップ自然公園ふれらんど施設のあり方について」説明</p>
意見交換	<p>●A委員 私もデジタル人材の開発・育成は重要であると考えます。厚生労働省でCOCOA(ココア)という非接触型のアプリを開発しましたが、デジタル庁によってアプリ廃止の判断が下されました。厚労省内にデジタルに精通した人材がいなかったことも廃止の一つの要因なのではないかと思います。公式アプリ「えにわか」を今後発展させていくためには、市役所内部にも市民にも、デジタルに精通する知識ある方が増えていくことが望ましいと思います。また、国でも人材開発助成金の見直しやリスキリングのための助成金も新たに作っているので、ぜひ市内企業にもこうした助成金を活用いただき、地域にデジタル人材が増えていくといいと思います。</p> <p>●B委員 コロナ禍の影響もあり、副業をする人がかなり増えている印象。こうした方たちが起業する際の補助金や無料セミナーなど、魅力的な補助や支援を今後も引き続き実施してほしいと思います。 「盤尻地区観光まちづくり懇談会」で実施したフィールドワークにおいて出てきた意見や気づきなどがありましたら教えていただきたいです。</p> <p>●花と緑・観光課長 盤尻地区をそもそも知らなかった方もおり、市民にもこの地区が浸透していないことがわかりました。そのため、現状はPR不足が課題であると認識しています。 また、非常に優れた自然環境や地理的優位性は大変魅力的だという意見がある一方で、施設同士の連携がうまくなされていないという課題が見えてきました。加えて、これまであまり活用されてきていない森林鉄道跡地といった産業遺産の活用についても前向きなご意見をいただいています。</p> <p>●B委員 観光で小樽市を訪れると、手宮線の線路沿いに若い女の子たちがたくさん来て写真を撮っている様子があります。若い方たちから話を聞き、そうした感覚も取り入れながら進めてほしいと思います。</p> <p>●座長 紅葉の時期の盤尻地区は素晴らしい景色でしたが、こうした観光の動きが地域にとってどれだけの経済効果をもたらすのか、捉えながら議論を進めていく必要がある。周辺の施設を結びつけてネットワーク化していくことができれば、地域にとってのさまざまな戦略が見えてくる。スマホのデータなど、デジタルデータを活用して戦略を練ることも重要でしょう。</p>

●C委員

私は市内小学校の教職員でもありますので、ふるさと教育が今後重要になってくるのだらうと思いました。盤尻地区にしても、ふれらんどにしても、ガーデンフェスタにしても、未来を担っていく子どもたちに恵庭の魅力を伝えていくということが大事だと考えます。たとえば、資料2に「テーマソングの活用・小中学校の授業等による実施」とありますが、総合学習のなかでテーマソングの歌詞に合わせた手話を学ぶことや、全学年の音楽の時間に恵庭の歌であることを伝えていくなど、恵庭市のまちづくりの下支えができるのかなと考えております。

●D委員

資料4のふれらんどについて、フォレストアドベンチャーがオープンしてからは集客もあると報告がありましたので、可能性は多くあるのもったいないと思います。インバウンドが戻ってきても働き手がないなどで取りこぼしがないように、仕組みを作り、ホスピタリティができるようにしていくべきだらうと考えます。

資料3の盤尻地区については、ハード面でのインフラ的な環境整備のほか、ソフトの部分をどう発信していくかがひとつポイントかなと思います。市民の皆さんが自ら発信していくような仕掛けが重要だらうと感じています。この地区は「盤尻」や「恵庭溪谷」など、ネーミングも人によって違うので、その辺りも統一感を持った方がいいだらうと思ひます。

資料1の人材確保等にかかわって、最近はやイトをしていない学生が非常に多いと聞きます。YouTube やサブスクなど、お金をかけずに過ごせるからなのかなと思います。今後のまちづくりの担い手には若い力も必要だと思ひますが、お金ではなくやりがいなどの価値を提案して、一緒に作っていけるようなものが必要なのではないかと思ひます。

また、今の高齢者の皆さんはスマートフォンを持っている方も多く、元気な方がたくさんいらっしゃいます。アクティブシニアの方々の活用も今後、人材不足・担い手不足の部分で可能性があると思ひます。市役所の横断的連携を期待しています。

●E委員

ふれらんどのパークゴルフ場の利用度がコロナ禍の影響で半分になられたということであれば、そのような施設環境もコロナの影響がなければどうなっているのか、定量分析をしてみてもどうかと思ひます。ガーデンフェスタも、コロナ禍の影響をもちに受けながらも約34万人の方が来場されていますが、コロナがなければもっとスケールが広がっていたのではないかと個人的には思ひます。

また、たとえばFビレッジのようにわかりやすいネーミングを盤尻地区につけることで、利用者にとって利用しやすい施設となるのではないかと思います。

●F委員

コロナ禍で学校現場もかなりデジタル化が進んだが、デジタルにすることが目的化してしまい、より不便になるということもこの3年で起きています。DXは、デジタルで新しい価値を生み出そうということなのだと思うが、なかなか日本では難しいという印象。どうしたら便利なDXが推進されるのかを考える必要があると思います。

観光でいうと、私はバードウォッチングで盤尻地区によく行きます。恵庭公園や恵み野中央公園などにも非常に面白い鳥や人気のあるシマエナガ、エゾモモンガもいます。白樺町から道の駅のあたりまででオジロワシが三羽います。本来であればもっと見に来る人がいてもいいと思います。釧路市はバードウォッチングのまちづくりで成功されている。イギリス人も結構来ていると聞きます。恵庭市もバードウォッチングのまちづくりができるのではと考えることがあります。

●座長

私は長沼町のタンチョウに関する検討会にも参加しましたが、きっかけは遊水池の活用で、全国的にも注目されるようになりました。実はタンチョウは道内どこにでもいますが、それを地域の魅力ある資源として仕掛けていくという意欲を持つことがまちづくりの意義だと思います。釧路地域でおこなった観光消費調査では、バードウォッチャーが地域に落とすお金の大きさが際立っていました。恵庭市を含め、地元の人には関心がないのかもしれないですが、外から来た人にとって北海道はバードウォッチングにとってすごく魅力のある地域。ただそれも使い方ひとつ。うまく使えばいろんなものを仕掛けられると思います。

●G委員

授業の関係で、市内の憩の家などに伺う機会がありますが、高齢者の皆さんがかなり元気ですよね。高齢者の方から、「学生たちの面倒も見てあげるから、何人でもいいから連れてきなよ」とか、「一緒に運動しようよ」などと声をかけていただき、すごく盛り上がってくれます。その盛り上がりを見ていると、高齢者施策に対するデジタル化も、きっと動機付けさえすればうまくいくのではないかと思います。高齢者施策や医療介護分野のデジタル化に予算を付けていただき、成功事例も参考にしながら取り組んでいただきたい。学生たちも参加して、一緒に成長出来たらいいのではと考えていました。

●副座長

ガーデンフェスタテーマソングの活用や記念日の制定は市民の皆さんの誇りになると思いますので、とても良い取り組みだと感じます。今後、ガーデンフェスタの周年事業なども開催されると思いますので、去年1年だけの取組ではなく、長く続いていくことを期待しています。

デジタル人材の話については道庁も同様で、急速に考えていかなければならないのですが、人材が不足している状況です。ツールだけ残って施策としていい形で残らないというのが、我々も危惧しているところです。そのため、NTTと協定を締結し、定期的にNTTのアドバイザーの方に相談できる仕組みをつくっています。道庁だけでなく、市町村の皆さんも活用できるものになっていますので、もし何か政策を考えていくなかご利用になる機会がございましたらご紹介させていただきます。

●座長

皆さま方の意見で多かったのが、ガーデンフェスタをどのようなかたちで今後の恵庭のまちづくりにつなげていくかということ。もともと恵庭の地方創生における取組のキーコンセプトは「ガーデンシティ」だったと思います。恵庭の都市政策の原点に「ガーデンシティ構想」があるということ、改めてガーデンフェスタが教えてくれたのではないかと思います。

また、デジタル化の問題にどのように取り組んでいけばいいのかについても多くご意見がありましたので、1つだけ私の北海道観光振興機構での経験をお話します。北海道の観光戦略をどう進めていくのか、そのときのテーマの1つがデジタルによる適確な地域情報の提供です。実際に観光客が北海道に来て、どのような方法で情報を求めているのかというと、スマホの検索が圧倒的に多い。行きたい場所や泊まりたい場所、そこに行くまでの交通情報をすぐに検索で読み取れることが一番の観光施策のニーズなのです。そのときにどんなアプリを使っているかというと、ほとんどはGoogle検索で、中国の方は百度です。そこで、北海道観光振興機構ではGoogleや百度の検索で観光客が求める情報がすぐにヒットされるよう、自治体の交通情報を改良する支援事業に取り組んでいます。これはソフトなインフラづくり支援ともいうべき本当に地道な作業ですが、例えば公共交通バスの運行情報などは駐車場情報も含めた情報がGoogleで読み取れるなど大きく変わり、観光客が使いやすくなりました。アプリを作っても使われなければ意味がありません。観光者の求めるものを見極めながらどのようなデジタル化を進めていくのか。是非、このような議論を積み重ねて、10年後、20年後の恵庭に残る政策を構築していただきたいと思います。予定されていた議事は終了しましたので、第2回懇談会を終了します。